

第 13 回 観音寺市民会館開館準備実行委員会【要約】	日時 平成 28 年 1 月 25 日(月)19:00~21:00
	場所 観音寺市役所 2 階 201 会議室
出席者	委員 13 名、事務局 3 名、事務局補 2 名
議題	(1)第 12 回議事録(要約)について (2)開館記念事業について (3)その他
<p>1. <u>開会</u> 開会のあいさつ。</p> <p>2. <u>委員長あいさつ</u> 委員長のあいさつ。</p> <p>3. <u>議題</u></p> <p>(1) <u>第 12 回議事録(要約)について</u> 資料を元に議事録(要約)について説明。確認の後、内容を承認。 承認された議事録を市のホームページで公開する。</p> <p>(2) <u>開館記念事業について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から配布資料についての説明 ・文化人 A から是非観音寺市で講演をすることを実現したいが、29 年度の仕事の状況によっては難しい可能性があるとの連絡があったことを報告。 <p>■小ホールの開館記念事業について</p> <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに様々なジャンルについて議論をしてきた。開館までの時間も限られているので、あと 2、3 ヶ月のうちに具体的に実施する事業や、指定管理者が実施するように依頼する事業などに精査する必要があるだろう。 ・今挙げられている事業の他に加えたい事業等があればご意見頂きたい。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念事業の規模だと大ホールの催しが多く、小ホールでの事業は音楽公演がひとつと、映画上演があるのみになっている。小ホールの音響性能は新市民会館の特徴のひとつなので、音楽を聴けるような企画、小ホールを活用できる良い知恵がないかと考えている。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽家 A を紹介。お母様が観音寺市出身の方なので、ゆかりがある。 ・伝統芸能 A を推薦。費用はそこまでかからず、プロではないがレベルもかなり高い。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 年程前に音楽家 B がいらっしやり、その後も個人的に彼を呼び公演を行った。記念事業ではなくとも、新しい体制ができれば提案したいと考えている。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は記念事業についての議論を行っていたので、記念事業でないと実施が難しい規模のもの、将来に繋がる公演であることの二点を重視して議論を行ってきた。 ・開館までの時間を考えても、「記念事業」として謳うものを決めなければならない。記念事業の他、指定管理者に繋いで実現していただく事業もあるだろう。 <p>【委員意見】</p>	

・せっかくの記念事業だからたくさんの人を集客したいと思うと、小ホールの客席数では少なすぎる場合もある。一方では客席数が少ないので、市からの支援がなくとも企画がやりやすいという利点もある。

・意見としては述べていないが小ホールで行ってはどうか、と考えている企画があるが、記念事業でなくともできると考えている。

【委員意見】

・市民利用の需要等を考えると、大ホールよりも小ホールの稼働率が高くなるだろう。「音楽ホール」という意味合いを込めて、チケットが抽選となるような公演を記念事業として打ち上げるのもひとつの方法だと思う。

【委員意見】

・小ホールで記念事業を行うとして、地元出身の方に何かやっていただく、というのはどうか。地元出身の方が、しっかりとした作品を記念事業として公演されても良いのではないか。

【委員意見】

・サンポート高松のように、若い音楽家を一堂に集めてひとつの企画とするのも良いと思う。

【委員質問】

・そのような企画は、記念事業というよりも新人演奏会などで毎年実施することになるのではないか。

【委員意見】

・観音寺市出身に限定すると中々難しい。有名な方を呼ぶとなると、逆に300席限定にしてしまうのがもったいない部分もある。

【委員意見】

・以前に意見が出ていたように、毎月1回の定期演奏会として実施するのも考えられる。

【委員意見】

・記念事業は開館後の1年間のみ実施される。2年目以降も継続して実施される事業は、開館記念とは別のものとして考えないといけない。

【委員意見】

・伝統芸能Bという意見も出されていたと思うが、それは行わないか。

【委員意見】

・伝統芸能Bは指定管理者の事業としても実施が想定されるのではないかと、いう理由から、開館記念事業の候補の中には入れない、という議論が本委員会ではなされたと記憶している。

・個人的な意見ではあるが、先ほどご意見が出た伝統芸能Aは、演目Aなどのおめでたい演目もあるので、こけら落としにも面白いのではないかと思う。

【委員意見】

・県内出身の音楽家Cを紹介。マイクを使わないで歌われる方なので、良い音響で聞いていただけだろう。

【委員意見】

・小ホールはキャパシティ的に、有名な方をお呼びするというのは難しいかもしれない。

・地元出身の方のリサイタルや、定期的な新人演奏会などを定期的に行う仕組みを作り上げ、今後も継続することを考えながら実施したほうが良いだろう。

【事務局補佐】

- ・継続した事業を行っていく、ということ積極的にアピールするほうが、ホールとしての特徴も出る。

【委員意見】

- ・少なくとも地元出身の方の企画と、新人のための企画の2つは継続したい。新人演奏会は多くのホールで実施しているが、地元出身の方を盛り立てて公演をするという試みは少ない。観音寺市からは、声楽家が何人か輩出されている。
- ・今後も継続していく事業は、初年度から取り組むのが良いかと思う。指定管理者とも相談し、継続できる仕組みを考えていただきたい。

【委員意見】

- ・地元出身の方の企画は毎年実施するとして、開館年はこけら落とらしくアレンジするならば、4、5名に出演していただき、一人20～30分程度で歌や演奏をしていただくのはどうか。翌年には1年目の出演者からひとり、ソロでリサイタルをしていただく、などすれば、1年目と差別化ができると思う。
- ・地元出身の音楽家Dなどをお願いし、音楽家Dの弟子などから推薦していただくなどすると良いのではないか。

【委員意見】

- ・音楽家Dからお声がけをいただければ、ある程度人が動くだろう。
- ・新人演奏会は、第一回目から募集をかけ、テープでの選考などを行うと良いのではないか。出来る限り、愛媛県や徳島県など地域を広げ、広く募集したほうがホールの将来のことを考えると良いと思う。

【委員意見】

- ・リサイタルは、出演者の準備も大変である。その詳細については、また次回の検討となるか。
- ・新人のための企画については、やるならばやると方針を固めてはどうかと思う。募集要項なども作成せねばならない。

【委員質問】

- ・入場料をとれる新人はいるのか。

【委員意見】

- ・1,000円程度で実施しているところが多いのではないか。赤字になるが、新人に出演の機会を提供するという意味合いが大きい。

【委員意見】

- ・小ホールのポップス公演についてだが、ポップスも若手が多くいる。観音寺出身の若手で、インディーズでCDを出している方もいる。そのような若手の登竜門として、小ホールでのポップス公演を行ってはどうか。
- ・多くの方から伝統芸能Cについて委員会で述べてほしいと意見を頂いている。実演家Aという地元の方がいらっしゃり、協力していただけるだろう。お話しも上手である。

【委員質問】

- ・例えば、半日くらいの時間で、出演したいという希望者を募っていくような感じか。

【委員意見】

- ・観音寺出身に限らず、近隣のプロ志向で活動している方たちに来ていただければ良いのではないか。

・ポップスだけでなく、ロックやフォーク、伝統芸能Cなど、色々なジャンルの方に入っていたくのも面白いと思う。

【委員意見】

・今おっしゃった企画を年の後半に持って行き、年の前半に出演アーティストが月1回のロビーコンサートを行い、最後に集まって公演をする、などできればいいかもしれない。

■吹奏楽、合唱、合同イベントについて

【委員意見】

・大ホールだが、楽団Aに、指導をしていただくことについて相談してみたところ、4月1日、2日はスケジュールが空いているとの事だった。こけら落とし公演に楽団Aの指導者も入っていただき、その翌日には楽団Aのコンサートをしていただくということも可能である。

・土曜日にこけら落としを行い、日曜日に何も無いというのも寂しいので、いかがか。

【事務局回答】

・委員会の意見として、確認させていただく。

【委員意見】

・予算の関係もあると思うが、計画の中に入れていただければと思う。ある程度の人数が集客できるだろう。

【事務局質問】

・指導等で数回来ていただくことになるのか。

【委員意見】

・指導についての予算額次第で指導回数は変わる。

・例えば、コンサートの前日に指導をしていただき翌日はコンサート等を行っていただくということであれば、ある程度経費を削減できるかもしれない。

・金額については交渉次第になる。

【委員意見】

・事業のスケジュールを決める際に指導スケジュールも併せて検討してはどうか。

・こけら落とし公演には指導者も入って演奏していただき、翌日は楽団Aコンサートとしてはどうか。

【委員質問】

・指導者は何名程度か。

【委員意見】

・パートは10~11程度に分かれるが、予算によってどのパートの指導者を県外から呼ぶかを決めていく。

・指導者を全員呼ぶのは本番前のみ、などの体制になるのではないか。

【委員意見】

・予算があるならばできるだけ指導の回数を増やし、子どもたちとプロが接する機会を多く設け、将来に続くとよい。

【委員意見】

・小ホールの活用については、他に意見があれば次回までに考えて頂きたい。

・こけら落とし公演の楽団Aの指導と公演については、事務局で具体的にお話ししていただき、報告をいただければと思う。

■市民ミュージカルについて

【委員質問】

- ・前回の委員会では、市民ミュージカルの母体について議論された。本委員会にも主体となって市民ミュージカルに関わっておられる委員がいらっしゃるが、その後の進展はあるか。

【委員回答】

- ・現段階では具体的な話はされていない。

【委員意見】

- ・多くの方に参画してもらい母体を作り上げていかないと、一過性で終わってしまう可能性もある。

【委員意見】

- ・資料の市民ミュージカルの出演者の欄に「市内の子ども中心」となっているが、現在でもスタッフという形では世代を超えて大人も参加している。出演するだけが参加者ではないので、「子ども中心」という表現は訂正していただいたほうがよい。
- ・出演者も子どもだけでなく、大人も出演したほうが演出の幅が広がる。子どもだけが出演するミュージカルは多くあるので、大人が参加しても良い。

【事務局回答】

- ・「市民中心」と訂正させていただく。

【委員意見】

- ・昨年12月の四国新聞にも、幼稚園児から80代の方までが参加している市民ミュージカルについての記事が載っていた。

【委員意見】

- ・そのように幅広い世代が参画できる形にしないと、継続的に育成をし、地域の芸術文化の向上などの目的が達せない。子どもを支えるだけだと、継続力がなくなってくる。「支えて楽しい、支えて頂いて楽しい」にならないと中々難しい。

【委員質問】

- ・集める手段はどのようになるのか。

【委員意見】

- ・公募になる。
- ・その記事の団体は地元の方が、地元になんだシナリオをお書きになっており、シナリオ力があると聞いたことがある。

【委員質問】

- ・観音寺市内や周辺などで、市民ミュージカルを立ち上げて力になってくれるような団体などはあるか。母体がなければ公募も難しい。

【委員回答】

- ・ボランティアで市民ミュージカルをやっているのは、私達だけである。事務局がおっしゃっていたのは、おそらく団体Aだと思う。演目Bを題材としたミュージカルをやっていたが、子どもと大人を含めて行っているので、公募でのミュージカルではない。

【委員意見】

- ・地域でミュージカルをやっている団体はあったが、ある一定の水準を持った公演を行うには、母体をしっかりしないとならない。
- ・もうすぐ開館まで1年を切るなので、骨子を作らねばならない。

【委員意見】

- ・継続するためには母体づくりが非常に大切である。継続すると自然と母体もしっかりしたものになっていくが、最初から作り上げるのは大変な作業である。

【委員意見】

- ・まずは核になる実働部隊が必要となる。
- ・二つ目に、市が今あるものを支援・育成していくという方針を示し、それに基づき、指定管理者が支援・育成を行うことを事業計画として示すこと。
- ・三つ目に、ミュージカルを指導できる人を確保すること。
- ・以上の三点がなければ、立ち上げも継続もできない。この三点をしっかりと打ち出せれば、人は集まるだろう。まずは母体をどう構築するかを十分に議論せねばならない。

【委員意見】

- ・現状では市民側としても、主体として動かしていく側でもなければ、こうしてほしい、という要望を打ち出せるわけでもない状況にある。

【委員意見】

- ・既存のグループに頼るだけでなく、周りが支えることも必要である。

【事務局意見】

- ・指定管理者候補者の事業提案にも、市民ミュージカルのような育成プログラムは示されていたが、どのレベルで実施しようとしているのかは、現段階では分からない。
- ・指定管理者候補者にすべて任せきりにするのではなく、募集等の作業は市も事務局に近い形でしなければ難しいだろう。
- ・正直に申し上げて、実現までには時間がかかるだろう。市民ミュージカルをやることが決定すれば、市と指定管理者候補者と市民の運営母体で協議しなければならない。
- ・ホールが開館してから、諸室等を利用して練習を行うという案も出されていたので、今後の協議となる。

【委員意見】

- ・中心となる人物を選び、依頼しないと実現できない。事業の核となる人物の候補者を書き出していかねばならない。

【委員意見】

- ・核となる部分の情熱がなければ、事業が続かないだろう。

【事務局意見】

- ・指定管理者候補者としては、指定管理者候補者が主導権をとって行うのならばいいが、「協力体制」という中身がはっきりと確定していない現段階では、ミュージカル事業の推進について何も言えないとのことである。

【委員意見】

- ・指定管理者候補者が主導権をとった場合、芽のある方々がその企画に乗るかどうかが問題である。準備は今から二ヶ月くらいの間にはやらねばならないのではないか。

【委員質問】

- ・観音寺市の現状は指定管理者候補者に理解していただいているのか。
- ・市の現状を理解して頂いた上で、今活動している方々と共に指定管理者候補者に示していただく方法で行う、というのであれば良いが、今あるものをゼロにして指定管理者候補者が新たに始める、というのはいかがなものか。

- ・指定管理者候補者に観音寺市の状況を説明し、今あるものを核として実施してほしいという願いはできるのか。

【事務局回答】

- ・今後の協議次第になる。
- ・指定管理者候補者と協議する中で、市民の芽を育てていくということは話していけるだろう。

【委員質問】

- ・指定管理者候補者に本委員会の議論等を説明し、どういう立ち上げ方をするかを指定管理者候補者から提案してもらい、その提案を本委員会で協議することは可能か。

【委員意見】

- ・今の段階では、本委員会にも指定管理者候補者にも「市民ミュージカルをこのように進めたい」という具体的な案がないので、具体の議論は難しいだろう。

【事務局回答】

- ・市民ミュージカルだけでなく他のプログラムも含め、全体が詰められていない。また、本委員会で方針を示したとしても、実現に際しては指定管理者候補者との協議を行い、調整しなければならない。

【事務局補佐】

- ・指定管理者候補者も、応募にあたっては本委員会の議事録等を読み、意向は把握しているだろう。今後、運営面での市民協働等についても協議しなければならない。そういった面も併せて指定管理者候補者と協議すれば、色々なシステムが決まっていくのではないか。

【委員意見】

- ・「こうやりたい」という要望や意見があれば、指定管理者候補者としても可否の判断ができるだろう。まずは母体を作り上げていかないと前に進まない。

【事務局意見】

- ・今後、指定管理者候補者との協議の中で検討していきたい。

【委員意見】

- ・今は、既存のグループ+αをどれだけ固められるか、ということに注力する必要がある。母体がしっかりとすれば、双方の足並みが揃うのではないか。

【委員意見】

- ・運営母体の作業は大変なので、作り上げるのにエネルギーがいる。指定管理者候補者や市の支援を受けるにしても、市民でやりたいと思う人たちが団結しなければ、先に進まない。

(3) その他について

【委員質問】

- ・プレ事業について、1月あたりに募集をかけるとのスケジュールだったが、現状はどのようになっているか。

【事務局回答】

- ・スケジュールが押している。できるだけ早く実施できるよう、計画を検討する。

【事務局】

- ・次回第14回は2月22日の月曜日を予定している。場所は同じく観音寺市役所2階会議室である。

4. 閉会

閉会のあいさつ。
以上